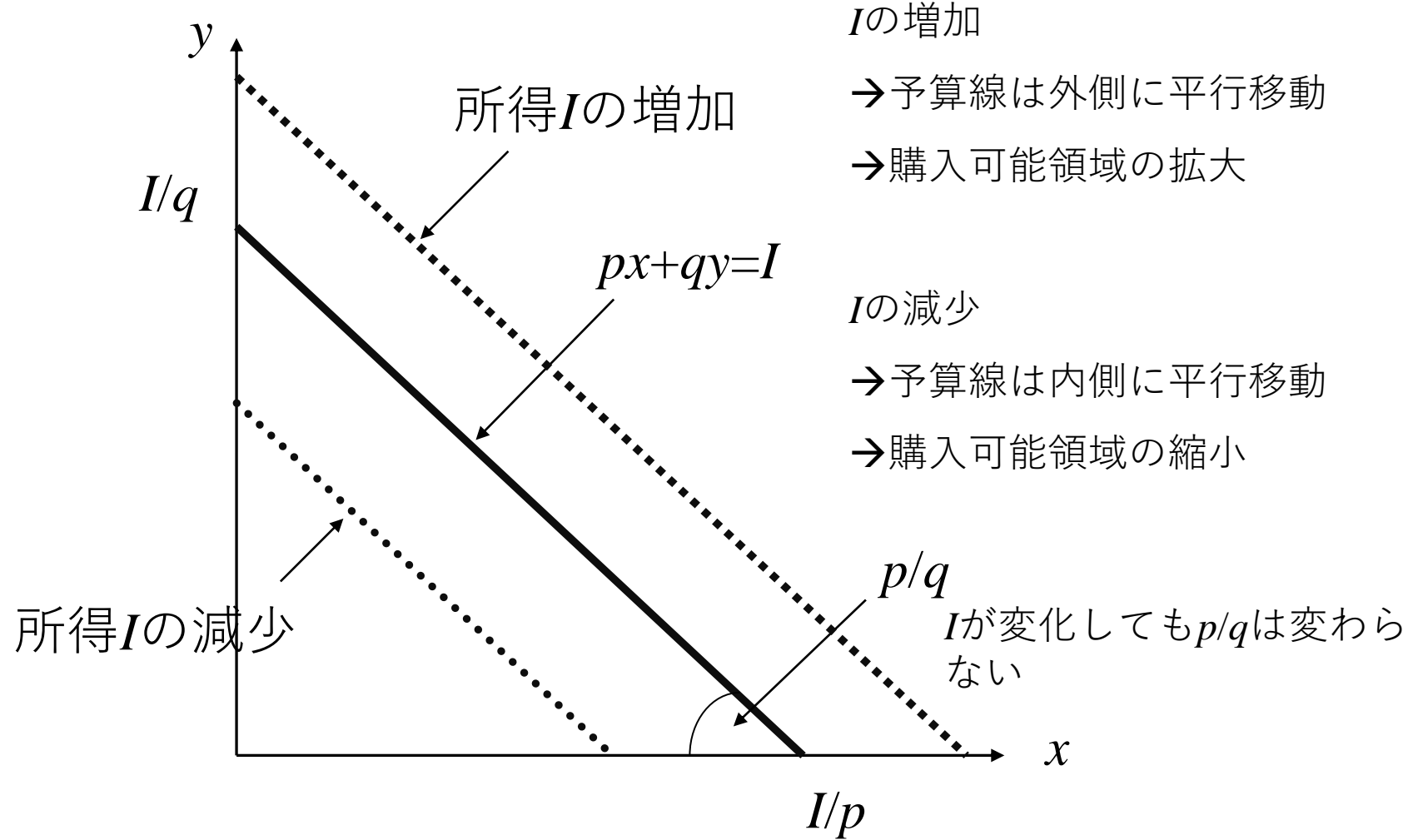


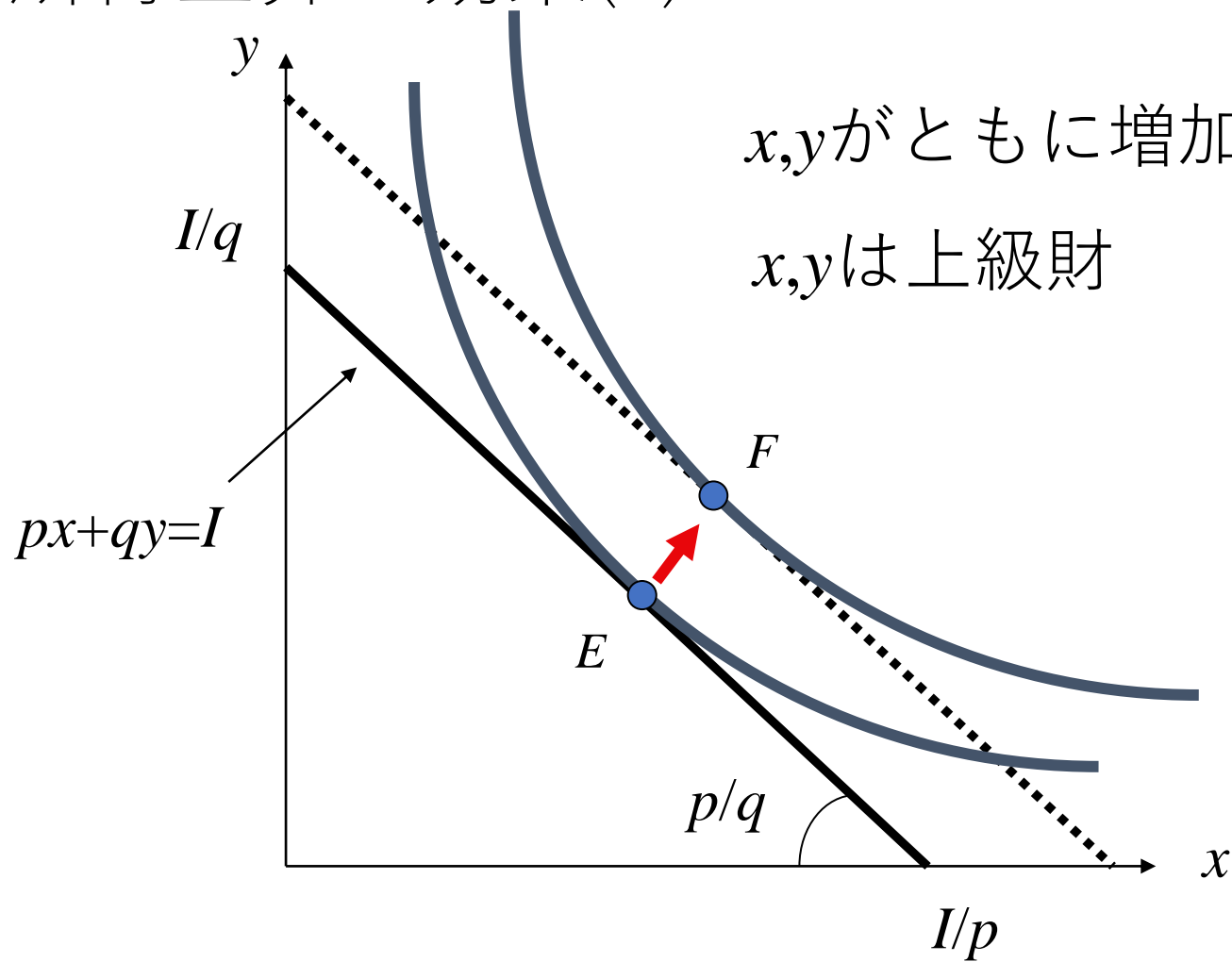
消費者行動の理論(2)

- 所得の変化
 - 上級財と下級財
- 価格の変化
- 代替効果と所得効果
- ギッフェン財
- 代替の程度
- 需要関数の導出

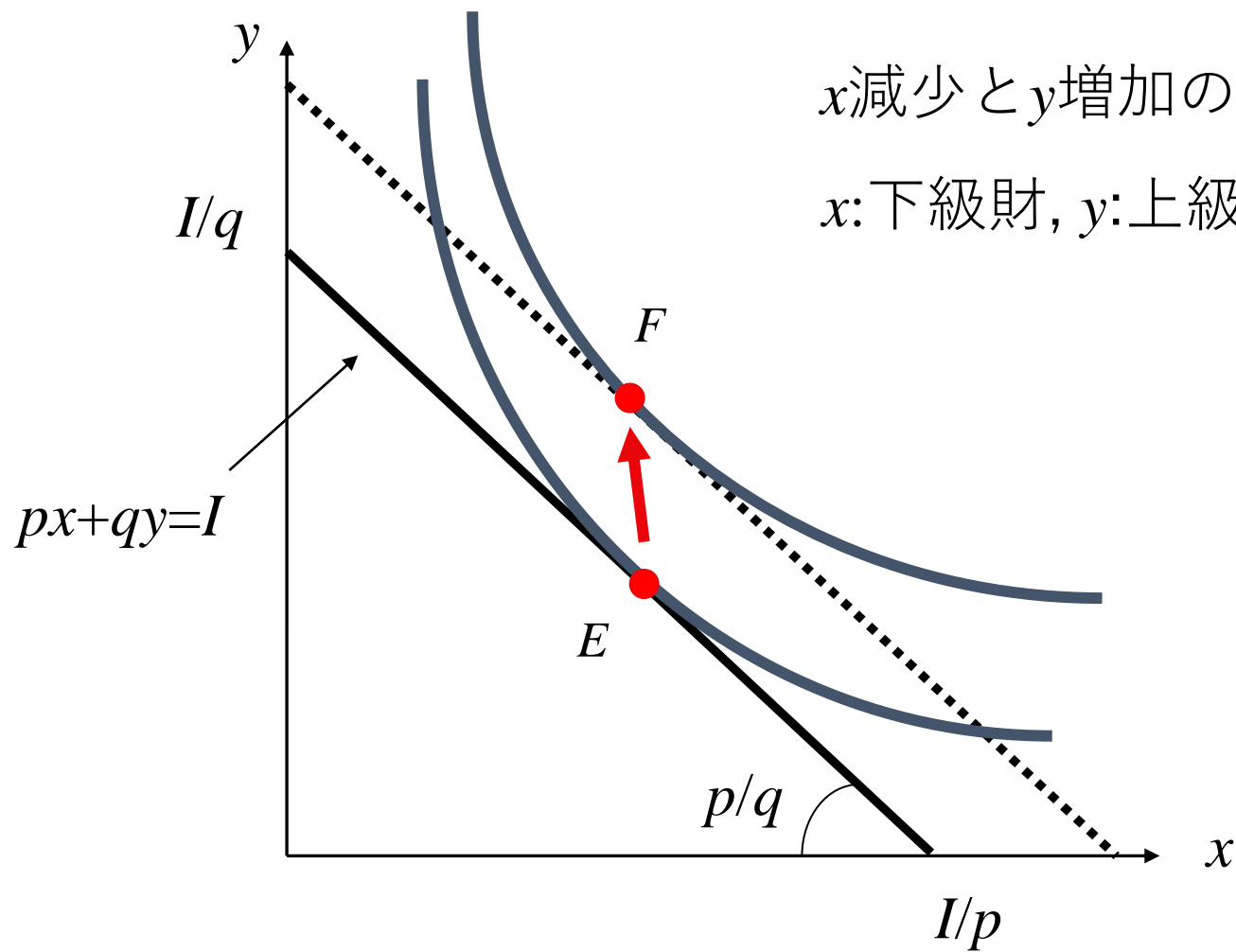
所得の変化



所得上昇の効果(1)



所得上昇の効果(2)



x 減少と y 増加のケース

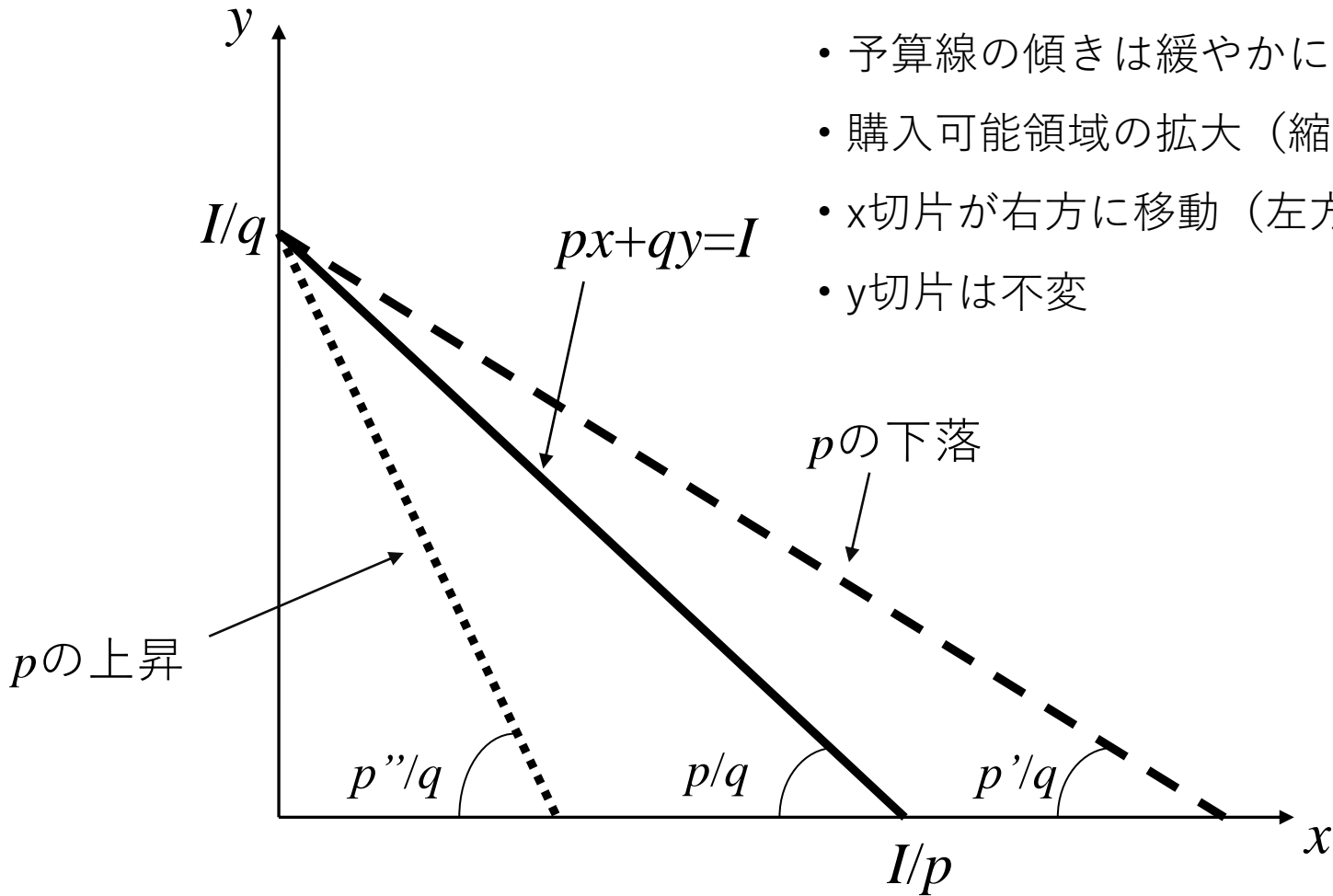
x :下級財, y :上級財

上級財と下級財

- 上級財 (superior goods)
 - 所得が増加した場合*, 財の消費量が増加するような財
 - 正常財(normal goods)とも呼ぶ
- 下級財(inferior goods)
 - 所得が増加した場合*, 財の消費量が減少するような財
 - 劣等財とも呼ぶ
 - ファストフード, (アイルランドの飢饉での) ジャガイモ
 - 低品質の日用品
- 無差別曲線の形状に依存

* 所得の変化のみで, 相対価格の変化は起こらない場合

価格の変化



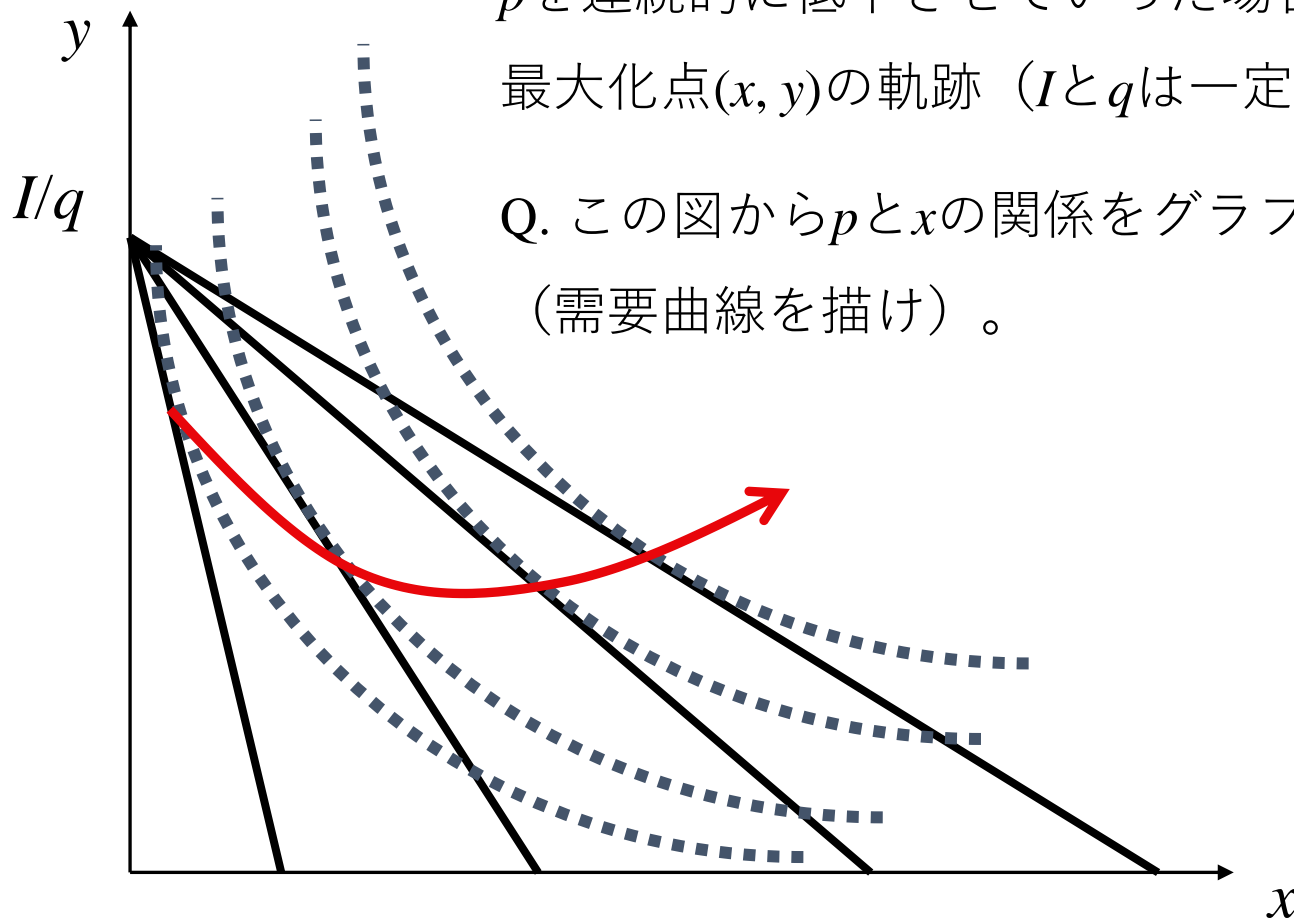
p の下落(上昇)

- 予算線の傾きは緩やかに (きつく)
- 購入可能領域の拡大 (縮小)
- x 切片が右方に移動 (左方に移動)
- y 切片は不変

Question

- 予算線の x 切片(I/p), y 切片(I/q)は何を表しているか。
- 予算線の傾き(p/q)は, 市場において1単位の x と何単位の y が交換できるかを表している。これを説明せよ。
- p ではなく, q が変化した場合, 予算線はどう変化するか。
- p, q, I が同一の比率で上昇した場合に, 予算線はどう変化するか
- p の変化によって, 消費者の選択する (x, y) はどう変化するだろうか。

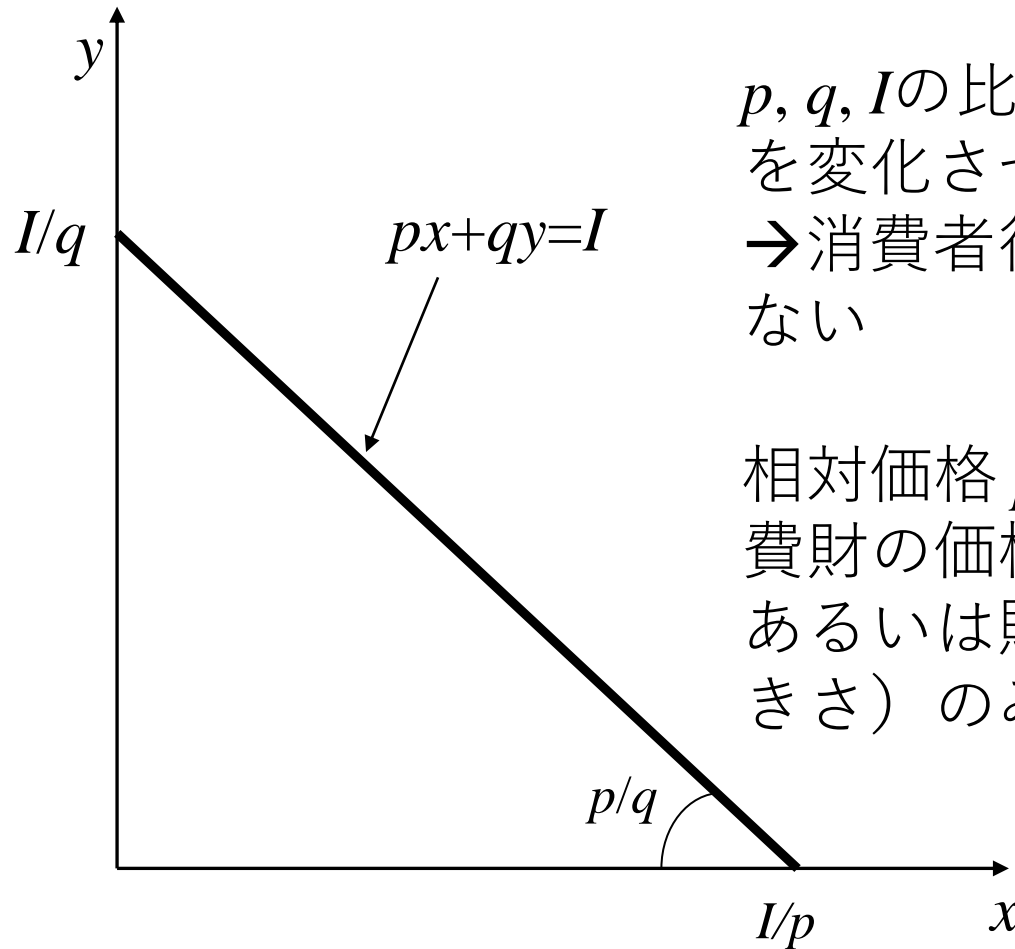
価格・消費曲線



p を連続的に低下させていった場合の効用
最大化点 (x, y) の軌跡 (I と q は一定)。

Q. この図から p と x の関係をグラフにせよ
(需要曲線を描け)。

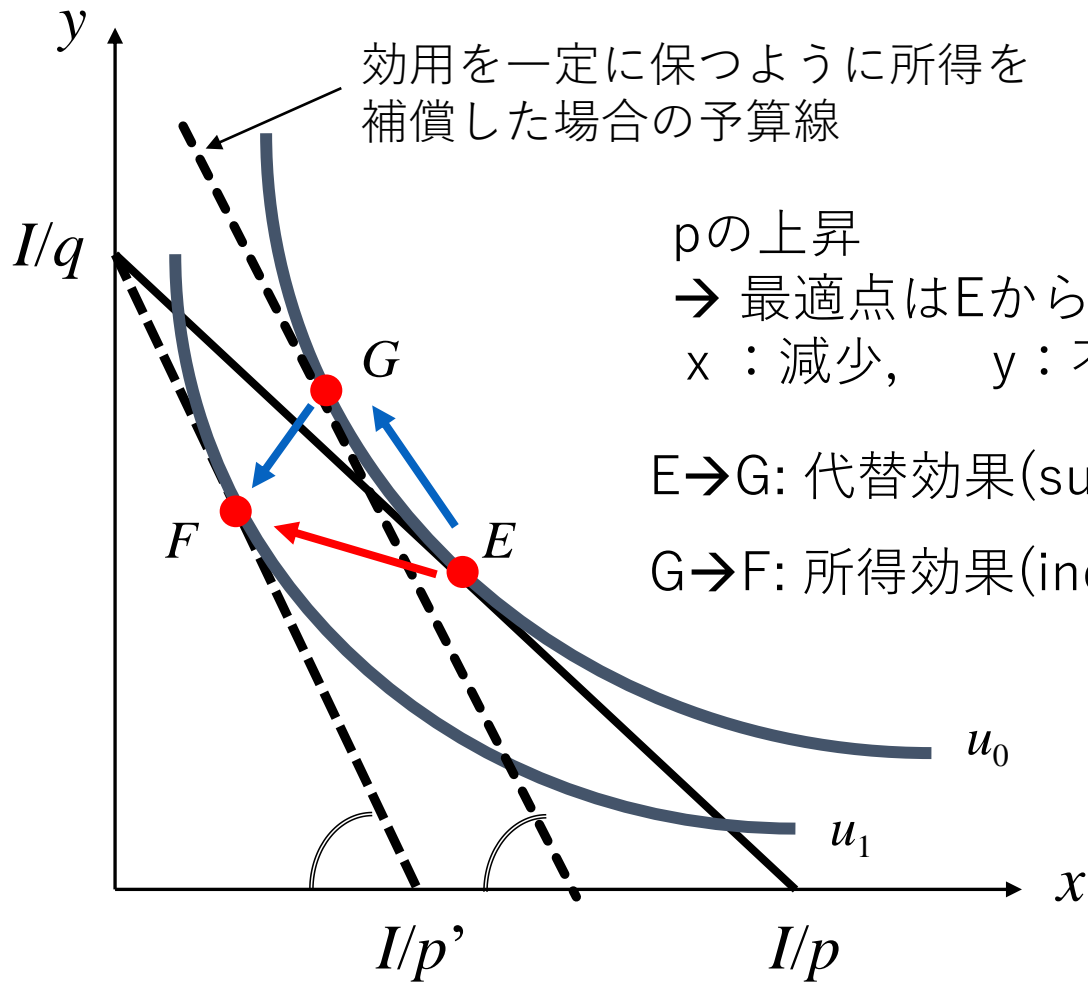
p, q, I の比例的変化



p, q, I の比例的変化は予算線
を変化させない
→ 消費者行動に影響を与え
ない

相対価格 p/q , 実質所得 (消
費財の価格で測った所得)
あるいは購買可能領域の大
きさ) のみが重要

pの上昇：所得効果と代替効果



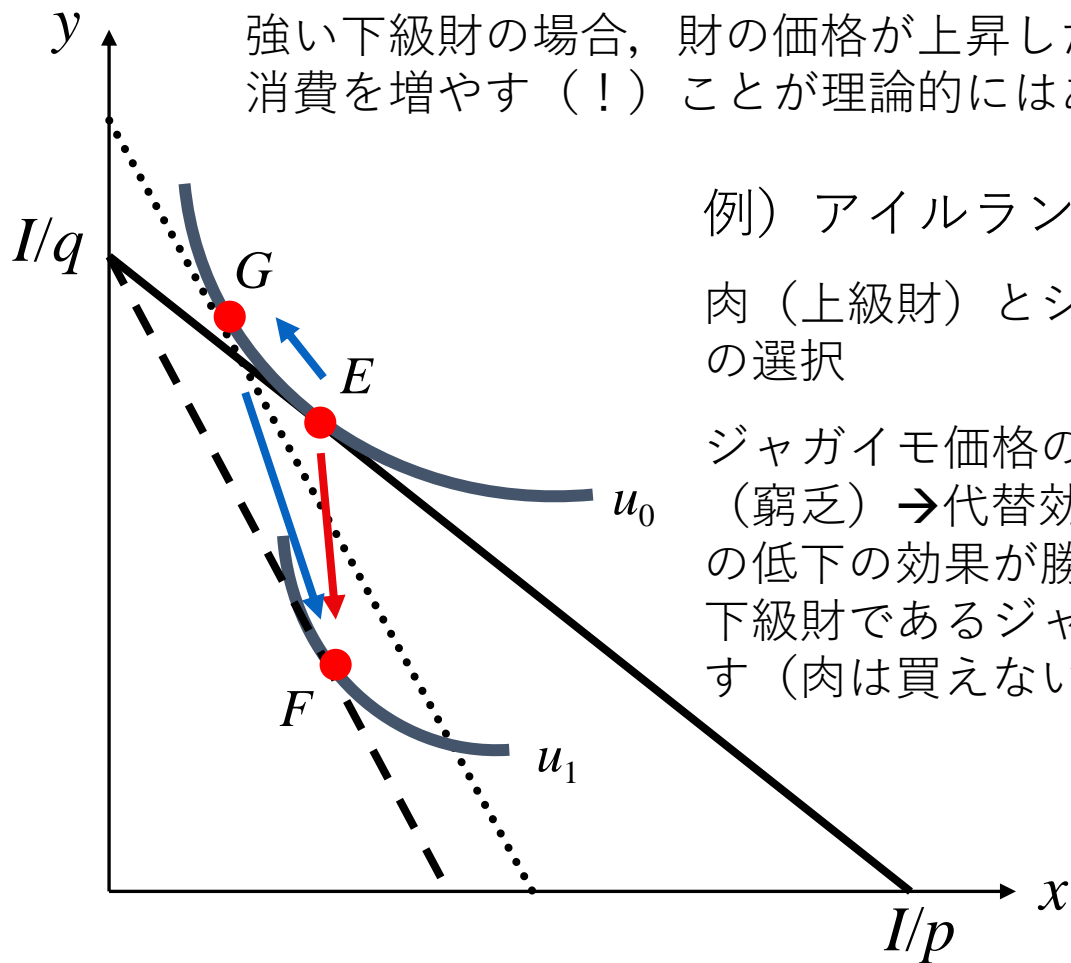
p の上昇：代替効果と所得効果(2)

x, y が上級財	x	y
代替効果($E \rightarrow G$)	-	+
所得効果($G \rightarrow F$)	-	-
総合($E \rightarrow F$)	-	?

x :下級財, y :上級財	x	y
代替効果($E \rightarrow G$)	-	+
所得効果($G \rightarrow F$)	+	-
総合($E \rightarrow F$)	?	?

- 代替効果：相対価格が変化した場合，効用を一定に保つように所得を補償し，純粹に相対価格の変化の効果のみを抽出
- 所得効果：補償した所得を取り上げ，効用の変化（実質的な購買力の変化）の効果を見る
- x が上級財
 - p の上昇： x の需要は必ず減少
 - 右下がりの需要曲線
- x が下級財
 - p の上昇：マイナスの代替効果，所得効果はプラス，総合的な効果は不確定

ギッフェン財



強い下級財の場合、財の価格が上昇した場合にその財の消費を増やす（！）ことが理論的にはありうる

例) アイルランドの飢饉(19世紀)

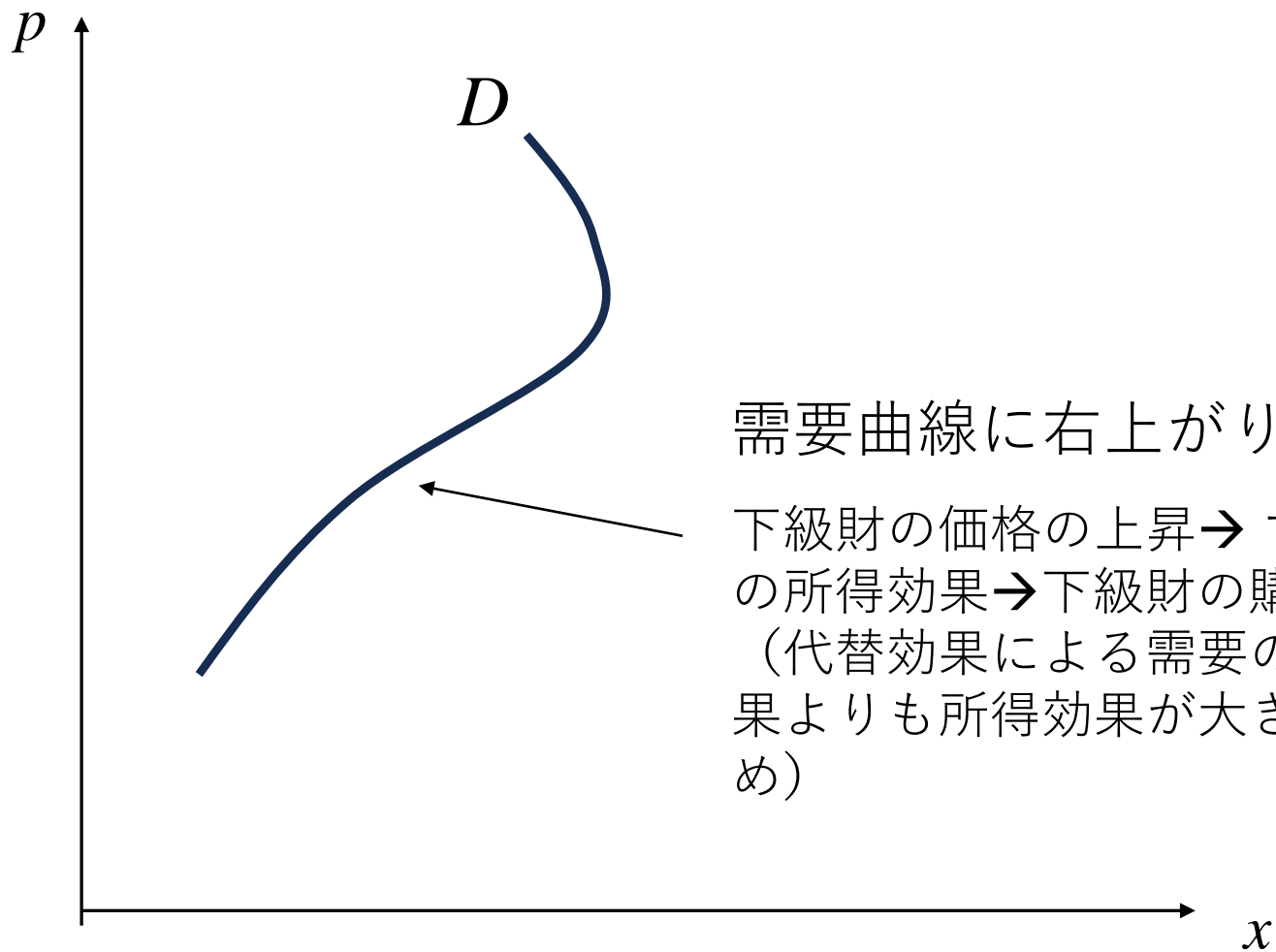
肉(上級財)とジャガイモ(下級財)の選択

ジャガイモ価格の高騰 → 強い所得効果(窮乏) → 代替効果よりも実質購買力の低下の効果が勝る → 困窮した家計は下級財であるジャガイモの消費を増やす(肉は買えない)

xは下級財

pの上昇による代替効果よりも所得効果が勝っている

ギッフェン財(2)

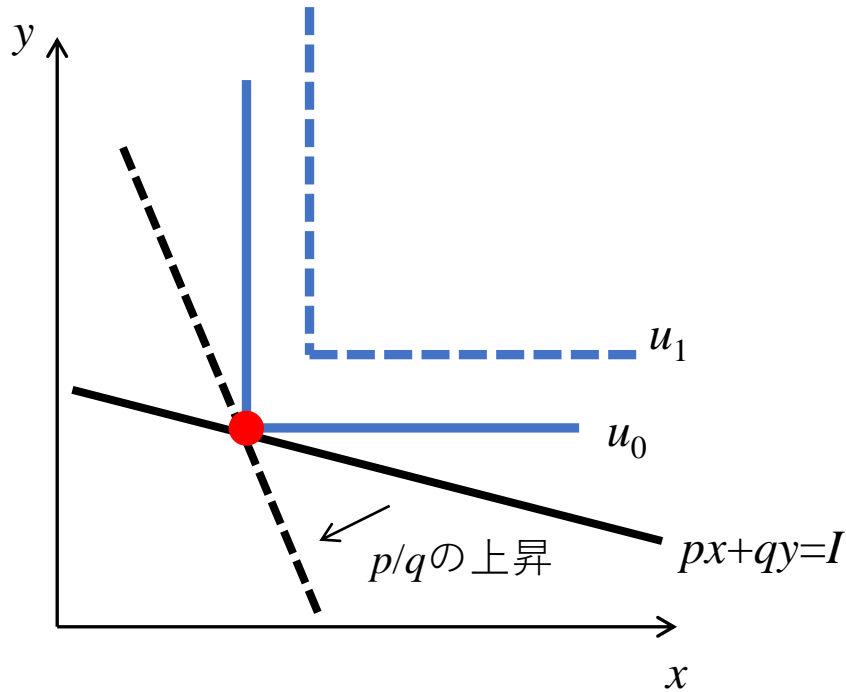


需要曲線に右上がりの部分

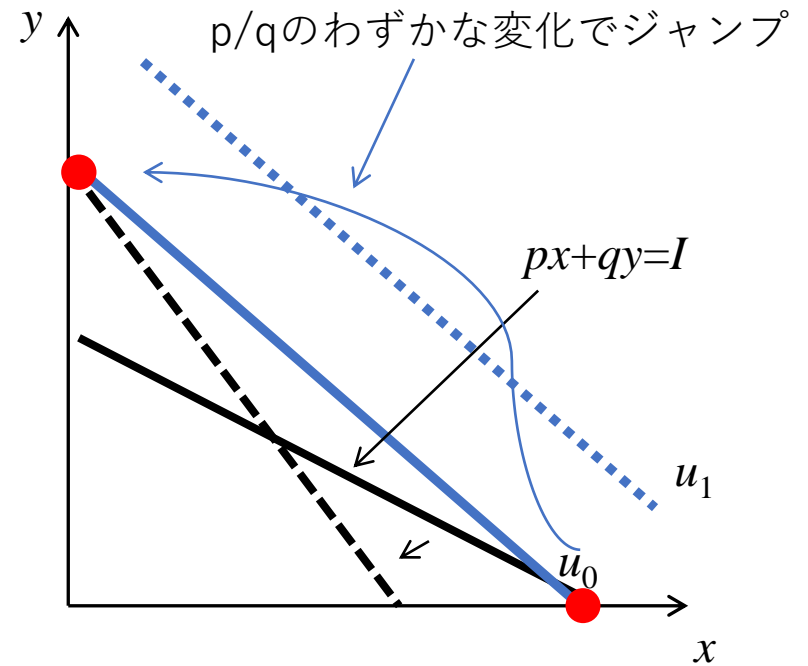
下級財の価格の上昇 → マイナスの所得効果 → 下級財の購入増加
(代替効果による需要の減少効果よりも所得効果が大きいいため)

代替の程度

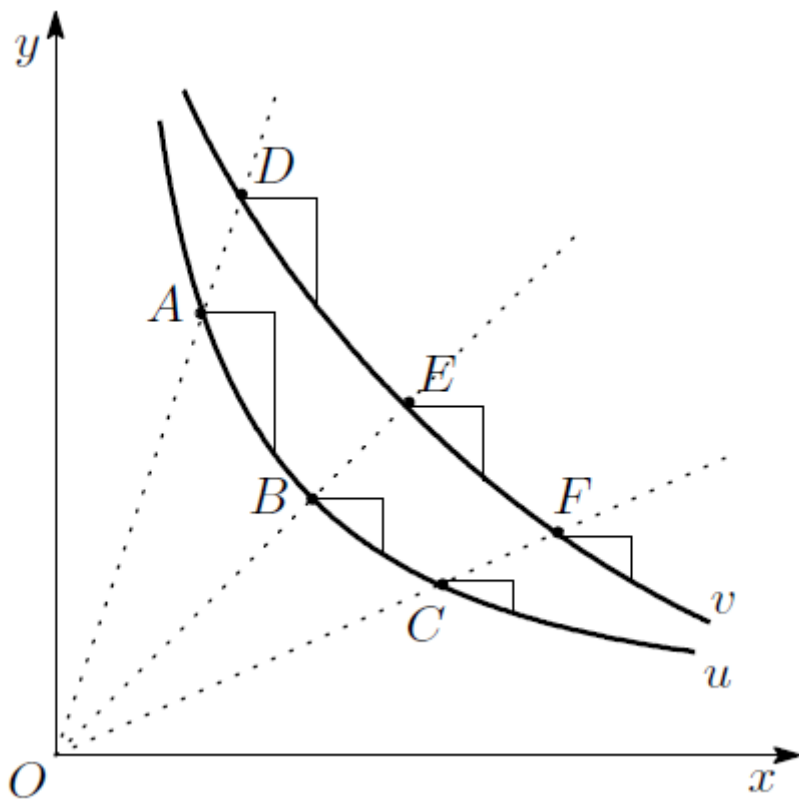
価格変化に反応しない場合
完全補完財



相対価格のわずかな変化で消費が大きく変化
完全代替財
ペプシコーラとコカコーラ



代替の程度(2)



無差別曲線の曲がり具合
が小さい (v)

→ 代替効果大きい

無差別曲線の曲がり具合
が大きい (u)

→ 代替効果小さい

効用最大化問題の解法

- 効用最大化の条件 $MRS=p/q$ を用いる方法
- 予算制約式を効用関数に代入する方法
- 1円あたりの限界効用の均等化条件を用いる方法
- ラグランジュ乗数法

例) $\max U(x, y) = x \cdot y \quad \text{s.t.} \quad px + qy \leq I$